

都会での花壇作り・大型コンテナづくり

～都心部の幼稚園の年間を通じた花壇・コンテナ計画～

作成者：グリーンアドバイザー 中道光子

- 対象者・人数：幼稚園児、保育園児 1クラス30名程度
- 所要時間：1時間～1時間30分
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、幼稚園先生2名
- 実施場所：幼稚園、保育園、イベント会場

<東京都品川区立 御殿山幼稚園での花壇計画例>

御殿山幼稚園は、緑の少ない都会の中でも緑が多く広い園庭があります。花壇は、塀の際や隣のビルの陰になり日の当たらない環境です。御殿山幼稚園で行った活動についてご紹介します。



大型コンテナ

□ 資材

- ・スコップ
- ・移植ごて
- ・ジョーロ
- ・肥料
- ・種まき用土



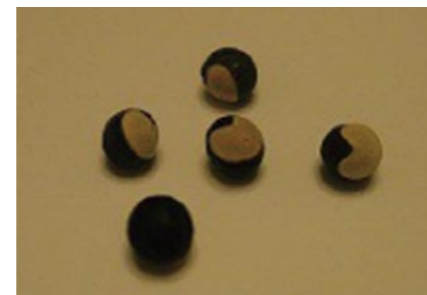
スコップ等の資材



種まき用のポット、肥料、用土

□ 花材

- ・もっこうバラ(苗) とげのないバラで非常によく咲く
- ・ニチニチソウ(苗) 日当たりを好む
- ・マリーゴールド(苗) 日当たりを好む
- ・フウセンカズラ(種)
種にハートの形が書いてあるので子供たちが見て楽しい。
花が枯れた後、来年用に種を取っておくと良い。
- ・ひまわり(種)
- ・おしろい花(種)



フウセンカズラの種



フウセンカズラ



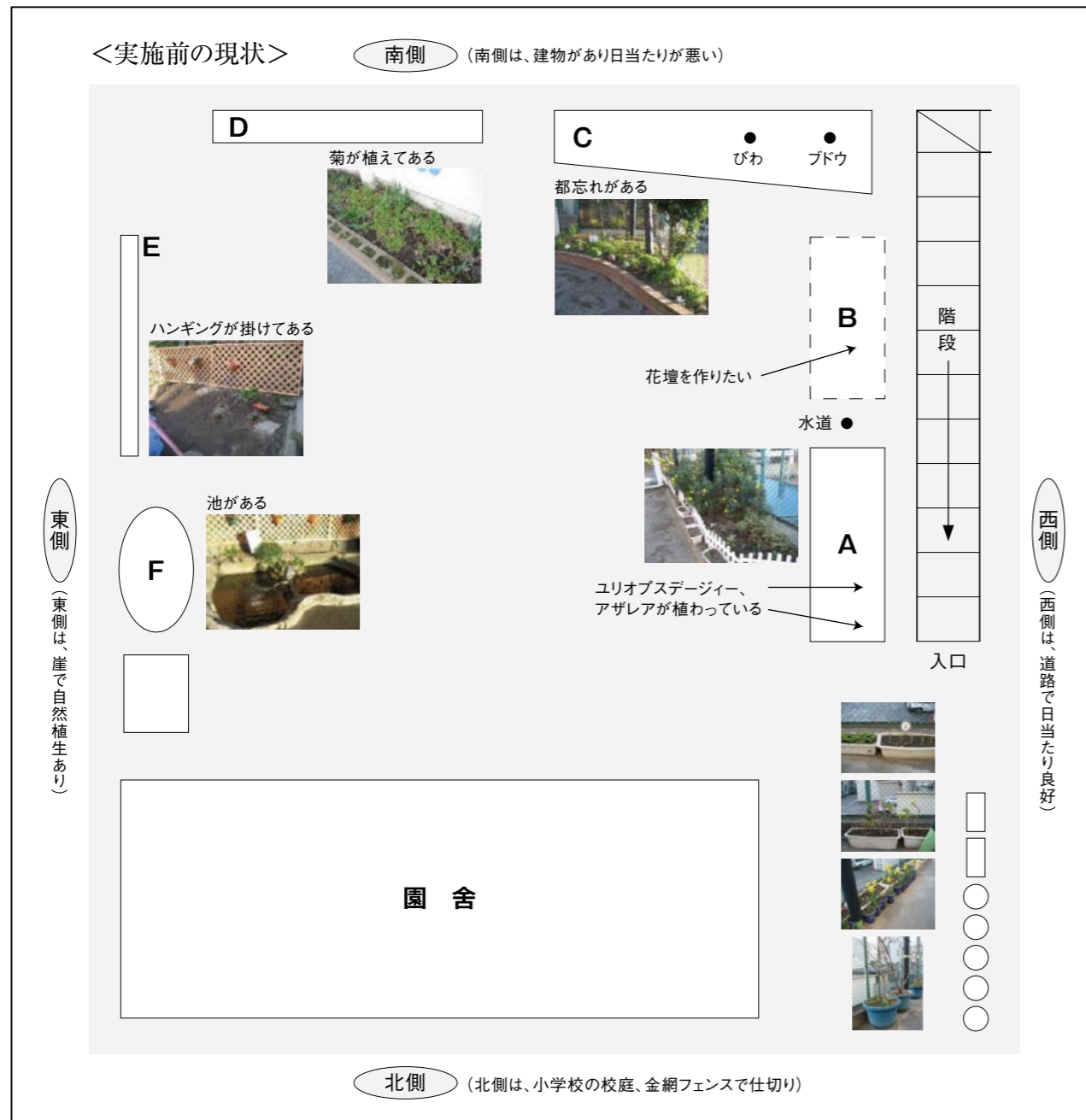
【指導内容と目的】

- ・園児が一生懸命植えた種、苗、球根等が育ち咲いた時の喜び、季節感、充実感、達成感を感じてもらう。
- ・植物には綺麗に咲いた時、又枯れて終わりになることを理解し、愛情を持って生命あるものに触れ、命の大切さを考え、水やり等積極的にかかわる責任感を育てる。

【対象者への配慮】

- ・東京都品川区の御殿山幼稚園では、近年の温暖化で真冬でも霜等あまり見かけないようになってきている。寒い地域、暖かい地域、日が良く当たる花壇、日陰の花壇等それぞれの地域、場所によって植栽は異なる。地域の自然環境に合わせた計画をする。
- ・安全面の配慮
土を触るので、手や指にけがをしている園児には手袋をする、日差しが強いときには帽子を被る等、病気やけがに注意する。
- ・花材について
植える植物は、物珍しさ・新しさにとらわれず、丈夫な植物、育てやすい植物にする。植える植物の色は明るい色等を選び、楽しく心ウキウキするような花壇にする。
- ・作業時の注意
園庭での楽しい作業は注意散漫になりがちなので、集合したら園児はしゃがんで話を聞くようにする。話はゆっくりと解りやすく話す。作業時は並んで順番にする等混乱しないように注意する。

● 御殿山幼稚園実施例

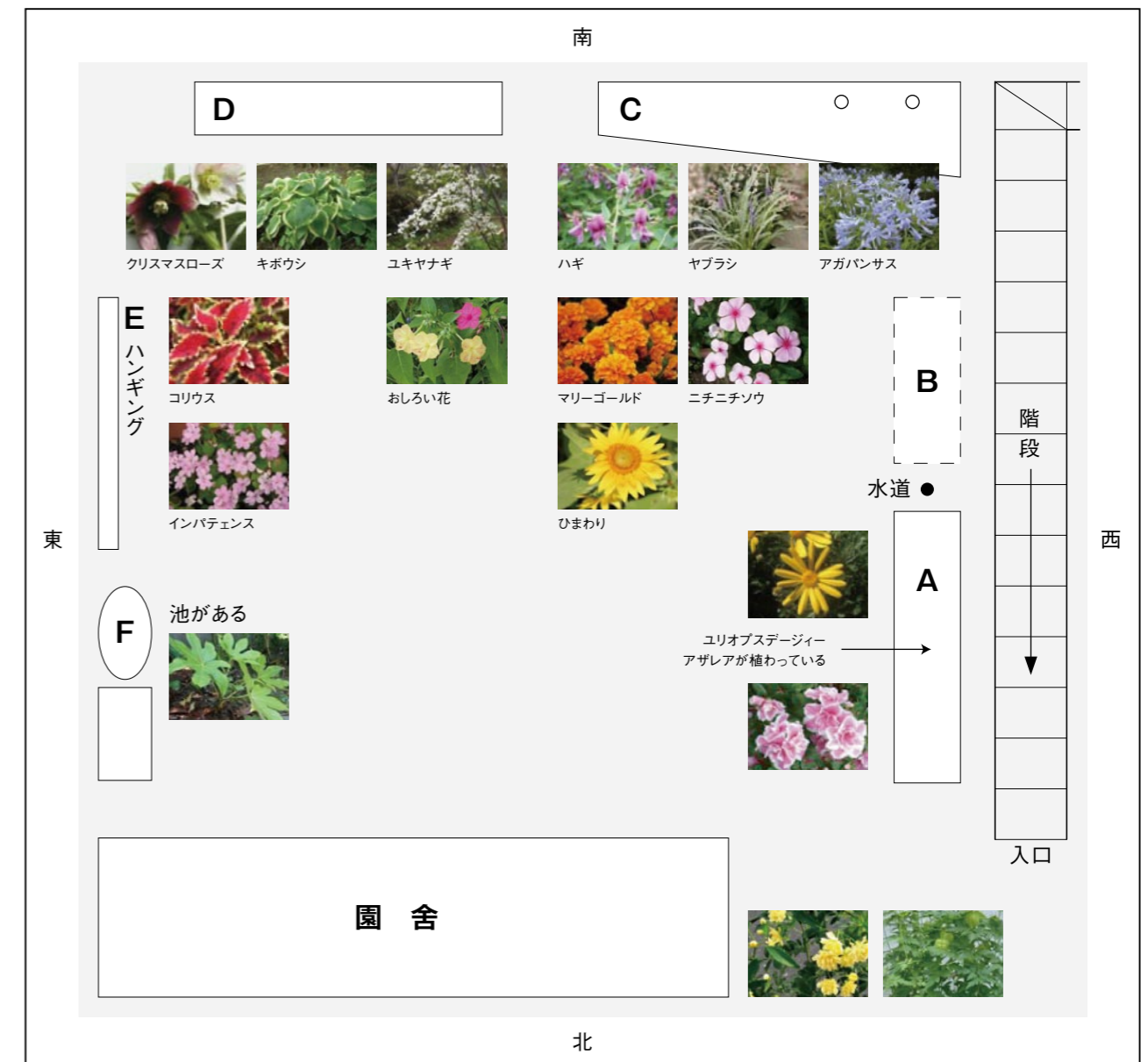


- ・緑の少ない都会の中でも、緑の多い幼稚園。
- ・花壇 A、B は日当たりは良いが、植物が植えられたまま大きくなり、手入れはされていない。
- ・花壇 C、D の南側すぐに建物があり日当たりが悪い。
- ・花壇 E は残土が盛られている。
(子供たちが土いじりをして遊んだりしているのでそのまま残したい意向)
- ・入口正面、園舎の西側はフェンスで南と西日が当たる。
園児達の作った鉢が沢山置いてある。

● 御殿山幼稚園における花壇設計の基本的な考え方

- ① 園庭、通路ともにすっきりと整理して四季折々の花がどこかで咲くように、宿根草、一年草合わせて植栽計画を立てる。子供の感性を育てる意味で、種をまき芽が出て、花が咲き、来年に向けて種を取る。
- ② 各花壇の立地条件に対応した植物選定の考え方
校庭花壇は、南側は建物に、東側は崖と日当たり悪く、西側のフェンスの面のみ日当たりや風通しが良く日当たりを好む植物に適している。その場その場の成育に適した植物を宿根草と一年草の混合植えにする。自分たちの育てた植物を、年間行事の飾り付けに使用できるように選択する。

<春夏花壇の植栽案>



<晩秋～早春の花壇の植栽花材例>

一年草の草花：パンジー、ビオラ、カレンデュラ、ノースポール
 球根：チューリップ、ムスカリ、クロッカス



チューリップ



ノースポール



パンジー

<花壇花材例>

春に咲く草花	夏に咲く草花	秋に咲く草花	冬に咲く草花
ロベリア	メランボジウム	コスモス	ハボタン
ネモフィラ	インパチェンス(春)	ハゲイトウ	パンジー(春)
リナリア	ジニア	スイートアリッサム(春)	ビオラ(春)
ワスレナグサ	バーベナ		カレンデュラ(春)
パンジー(冬)	マリーゴールド		ノースポール(春)
ビオラ(冬)	ペチュニア(春)		
カレンデュラ(冬)			
ノースポール(冬)			

春植え球根：ダリア、グラジオラス、カンナ

秋植え球根：チューリップ、ムスカリ、クロッカス

●年間スケジュール案

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	入園式	子供の日 母の日	父の日	七夕		お月見	ハロウィン		クリスマス	お正月	節分	雛祭り 卒園式
モッコウバラ		植えつけ										
ニチニチソウ		植えつけ										
マリーゴールド		植えつけ										
おしろい花		種まき				種取り						
フワセンカスラ		種まき				種取り						
ひまわり		種まき				種取り						
ダリア	植えつけ							球根掘り				
アサガオ			種まき									
センニチコウ						植えつけ(少しづつ取ってはクリスマス用に)ドライにする						
パンジー								植えつけ				
ビオラ								植えつけ				
ノースポール								植えつけ				
カレンデュラ								植えつけ				
ミニシクラメン								植えつけ				
チューリップ			球根掘り上げ					植えつけ				
ムスカリ			球根掘り上げ					植えつけ				
クロッカス			球根掘り上げ					植えつけ				
サツマイモ			植えつけ					収穫(ツルでクリスマスのリース作り)				
ジャガイモ		芽かき		収穫								植えつけ
ナス		苗植えつけ										
ピーマン		苗植えつけ										
キュウリ		苗植えつけ										
トマト		苗植えつけ										
スイカ		苗植えつけ										
オクラ		種まき										
タテ藍		種まき		挿木	生葉染め							
ダイコン						種まき						
カブ						種まき						
小松菜						種まき						
ミズナ						種まき						

1.事前の園との打ち合わせ

- ・当日の園児の人数確認
- ・植えつける場所の確認

2.事前準備

- ・花材の発注
- ・植える個所を前日までに耕しておく

3.当日の流れ

時間(所要時間) 1時間～1時間30分

①挨拶 講師 自己紹介



②今日の作業の説明

園児はしゃがみ、花苗を見せながらゆっくりと解りやすく説明する。(開花しているときはいつごろまで咲くのか、未開花ならいつ咲くのか等)種はどのくらいで芽が出るのか、咲く花の写真を見せて説明する。

③植えつけ、種まき

花を指導する講師1人と幼稚園の先生2人の3人で、花苗を植えるところ2カ所、種をまくところ1カ所の3カ所で園児を並ばせて一人ずつ花苗を植えつけ、種まきをする。(必ず指導者と園児一対一にする)

④水やり

自分が植えた花苗にじょうろで水をあたえます。

⑤終わりの挨拶

芽が出る楽しみ、花が咲く楽しみを話し、水をあげることの大切さを話すこと。

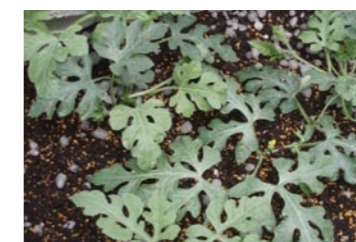
● 大型コンテナを使って野菜作り

都会で園庭の小さい、土のない幼稚園、保育園でもコンテナを利用することで、植物を育てる楽しみ、育てた達成感を味わうことができる。

* 都会で、畑のない幼稚園でも大型のコンテナ(L1200×W505×H515mm)を利用すれば、深さがあり土が沢山入るので野菜を作ることができる。



* 御殿山幼稚園では、日当たりの良い場所に大型コンテナを3つ設置し北側のフェンスにもっこうバラ、フウセンカズラ、スイカをからませ、フェンスの前になす、ピーマン等の夏野菜を植え込んだ。



* 植物にはそれぞれ成長する速度、時期が違うので、奥のフェンスに絡ませる植物、手前のスペースに季節の花を植えることもできる。野菜を作ること収穫の喜びを感じ、収穫した野菜を子供たちと共に味噌汁等の料理を楽しむことにより食べる楽しみを体験することができる。



- * 園庭に咲いてる花を自分で摘み取り、季節の行事等でのアレンジの花材に使用する。
- * サツマイモのツルは収穫と同時に輪にして乾燥させクリスマスのリースとして使用する。(乾燥するとかなり縮むので大きく太くつくる)
- * センニチコウは収穫したらすぐにワイヤーを挿して瓶等に挿してドライにすると良い。



タデ藍を使った生葉染め

～花壇・コンテナで育てた植物を使った指導例～

作成者：グリーンアドバイザー 中道光子

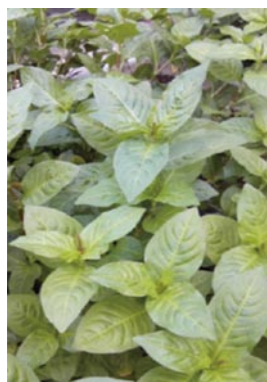
- 対象者・人数：幼稚園児、保育園児 1クラス30名程度
- 所要時間：1時間～1時間30分
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、幼稚園先生2名
- 実施場所：幼稚園、保育園、イベント会場

□ 資材

- ・ミキサー（なるべくあるほうがいい）
- ・ガーゼの袋又は水切りごみ袋（園児一人に一枚）
- ・洗面器
- ・輪ゴム
- ・ビー玉
- ・絹の布地
- ・タデ藍の葉（染める布の3倍の重量）
- ・雑巾数枚

□ 花材

- ・タデ藍（タデ科の一年生植物）



- ・種をまいて20cm位に育ったら、挿木にして増やすことが容易にできる。
- ・挿木のときは、だめかなと思うぐらいしなびるが、1、2日で元気になり根付く。
- ・生葉染めは刈り取った葉をすぐに使うこと。
- ・染める布地は絹地が良い。
（絹地は、金額がかさむのでスカーフや小さいハンカチ等その他の物に染めても良い。染める素材は色々な種類がある）



【指導内容と目的】

- ・タデ藍の葉を使用して火を使わずに簡単に絹に色を染めることができる。
- ・空気に触れることにより酸化して色が出てくる驚きと喜びを味わう。

【対象者への配慮】

- ・小さい子供の力では、藍の葉をすべて手でこねて、染色液を作ることは難しい。手の作業と合わせてミキサーで染色液を作ってあわせると良い。
- ・タンパク質に作用し染まるため、素手で作業すると手が青く染まるので、ビニール手袋を使用する。
- ・時間をかけず手早く作業し空気に触れると発色する。

1. 事前の打ち合わせ

- ・絹の布代がかかるので、予算をはっきり聞く。
- ・当日、染色液で汚れることがあるので服装に注意する。
- ・水を使用するので、水場に近い会場を選ぶ（室内であるが、屋外で作業するほうが良い）。

2. 事前準備

- ・タデ藍の葉の重さを量り、染める布の重さの3倍位用意する（少量だと色が薄くなる）。
- ・ガーゼの袋か水切りごみ用の袋を用意する（ガーゼのハンカチは一方を切ると袋になる）。
- ・会場の準備
水、染色液を使用するので、濡れても良いように、テーブルの上に新聞紙を敷き、濡れて床が滑らないように注意する。

3.当日の流れ

時間(所要時間) 1時間程度

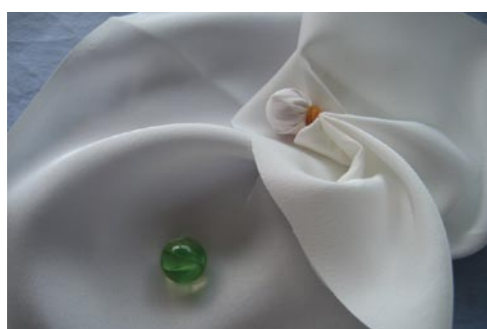
①挨拶 講師 自己紹介

②藍染めの説明

タデ藍は、どのような植物でどのような花を咲かせるのか、どのような布地に染めるのか、どのような作業をするのかをゆっくりと説明する。

③絹の布に輪ゴムで絞りを作る。

しぼりの中にビー玉を入れても面白い。



④絹の布をぬるま湯につける。

⑤一人に葉少量と、ガーゼの袋、洗面器を渡す。



⑥ガーゼの袋の中に藍の葉を、手で小さく刻みながら入れ、ガーゼの袋の口を輪ゴムで縛り、水にひたしながら葉の色が出るようになるまで手でもむ。

⑦ミキサーがある場合は、ミキサー一杯に葉を入れ、葉がすべて浸せるぐらいの水を入れて回し葉が細くなるまでミキサーをまわす。ミキサーがないときは、指導者あるいはアシスタントが葉を入れた袋を手でもみ、染色液を作る。

⑧⑦を新しいガーゼの袋に入れてこし、⑥園児が手でもんで作った洗面器の染色液とあわせる。



⑨絹の布をぬるま湯につけて取り出し、軽く絞る。⑧の染色液に5分ほど漬けて軽く絞り、広げて空気に触れさせる。空気に触れることで酸化して色が出てくる。この動作を3回ぐらい繰り返すとだんだん濃く発色していく。



⑩色がついたら、水で良くすすぎ乾かす。

⑪一人ひとりの作品を見ながら「綺麗な色に染まったね」、「しぼりの形が素敵ね」等、声かけを行い、必ずいいところを子供達に伝える。

⑫片づけ

⑬終わりの挨拶

